

社会変動論(国際関係学部)

授業概要

人間と社会の成長過程における生活世界の拡がり、それまで体験し得なかった新たな(異なる)文化との接触を可能にした。文化変容・移民(移住)・貿易などに代表される「国際交流」がその結果である。

そこでこの講座では、そのような状況下での人間のとまどい・差別意識への道のりを理解するため「異文化ストレス」をキーワードとし、社会学的に(国際関係のみならず、人間社会の諸現象を客観的に)解説していく予定である。

授業計画

1. 「社会変動」理解の基本条件
①「社会」の原理 ②変容の原理
2. 社会の変動する部分(社会動学)
①時間的経過 ②文化・慣習 ③人間
3. 社会の変動しない部分(社会静学)
①社会構造 ②同一視
4. 社会変動の理論的理解
①三段階の法則 ②唯物史観
③社会分業論 ④Gesellschaft
5. Cultural Relativism とEthnocentrism
①原理 ②近代化 ③異文化ストレスの根源
6. Globalizationという神話
①構造改革の必要性 ②優越感と劣等感 ③非日常性
7. 「ストレス」現象
①定義 ②(国際関係論的な)発生原因 ③対処法
8. 「異文化ストレス」体験
①実験・演習 ②応用
9. まとめ

教科書 服部慶亘著『ストレス・スパイラル——悩める時代の社会学』人間の科学社

履修条件 3年生以上。他学科、および短大専攻科の学生の履修も大歓迎！

成績評価

基本的に試験は行わず、年数回(2~3回)のレポートを以って成績評価する。ただし、極端なまでに(理由もなく)出席状況の悪い者には単位認定しない。

その他

質問は随時受け付ける。講義の前後でも、またはインターネットでも可能。アカウントを取得していない学生は、出来るだけアカウントを学内の情報教育センター、またはプロバイダから受けてほしい(学内でアカウントを取得するのは無料)。今後、インターネットは国際社会の激変に対応する必須ツールとなる。

講義内容に関するURL <http://nihon-u.bewith.ac>

講義内容に関するメールアドレス yoshibei@ir.nihon-u.ac.jp